

粕川地区の歴史

赤城南麓のほぼ中央にある粕川地区は、赤城山の小沼を水源とする粕川と密接に結びついた歴史があります。粕川により形成された扇状地は水利に恵まれず、溜め池等の灌漑に頼って耕地開発が行われてきました。このような先人の営みと、赤城南麓の自然や風土が、あまって粕川地区の歴史や文化は育まれてきました。

粕川地区の台地には、旧石器時代以来の多くの遺跡がみられます。特に、南部の深津で検出された弥生時代中期の西迎遺跡以降、耕地開発が進み、古墳時代初期の環濠集落である西原遺跡では、前橋台地周辺と赤城南麓特有の土器の融合が認められます。古墳時代中期には、東部の麓で白藤・新宿古墳群が形成され、後期には月田地区の開発が行われ、月田古墳群がつけられました。鏡手塚古墳や壇塚古墳は、粕川の水を大規模に灌漑し、扇状地の開発を推進した首長層が埋葬されたものと考えられます。

奈良・平安時代になると一層開発が進み、山間地への入植も行われたようです。最近の山間地の調査で平安時代の製鉄関連集落が発見され、農耕以外の新たな産業が赤城南麓地域に定着し始めたことが想定されています。宇迦遺跡は密教の普及に伴って建立された山岳寺院跡です。中世には、宝塔（赤城塔）が各所に造立されます。深津の三ヶ尻の宝塔は形式的に古く、美術的にも優れたもので、赤城信仰と結びついた布教の広がりを見物しています。

問い合わせ先 文化財保護課
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9875
FAX 027-231-9862

粕川地区の文化財めぐり



前橋市教育委員会



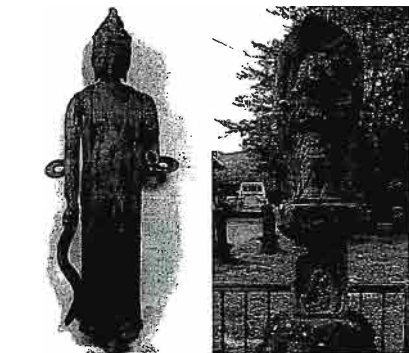
⑪ 月田近戸神社の獅子舞



⑤ 女洲城跡



⑨ 膳城跡



⑥ 木造十一面観音立像



⑦ 稲屋の石造馬頭観世音立像



⑬ 滝沢の不動滝



⑮ 壇塚古墳



① 三ヶ尻の宝塔（赤城塔）

⑫ 六地藏石殿



粕川地区の文化財を訪ねて

粕川の水と赤城山への信仰心に育まれた歴史を有する粕川地区には、次のような貴重な文化財があります。

- ① 三ヶ尻の宝塔（赤城塔）（市重文） 粕川町深津994
赤城信仰と法華経信仰に由来する石製宝塔で、粕川の流域を中心とした赤城山麓に多く分布しているものを特に「赤城塔」と呼んでいます。この地域には法華経信仰が古くからあり、布教活動の一環として赤城塔の造立が行われたものと考えられています。扇地内にあるこの宝塔は、塔身の高さ89cmで、一番上の輪郭部分が欠けています。紀年銘はありませんが、県内の銘のある宝塔と比較すると、塔身の形や基礎に刻まれている蓮弁の形などから、鎌倉時代のもので推定されます。地元には、この地に流された高野辺家成の妻の供養塔であるという言い伝えもあります。
- ② 深津坂田城跡（深津館）（市史跡） 粕川町深津1,357-2他
中世の地方豪族である深津（奥）氏の居館跡と伝えられています。堀の内と呼ばれ、方160mの二重堀に囲まれた一郭が本丸跡と推定でき、北東隅に一部堀が残っています。
- ③ 込戸戸持人形式三番衆（市無民文） 粕川町込戸129-1白山神社
人形の形式から近世初期にまで遡ると考えられる式三番衆は、明治初年頃に途絶えてしまったと伝えられています。それでも、地元では人形が途絶えて「さんばさま」と言い、長く信仰してきました。平成6（1994）年、式三番復活の声が上がった「込戸戸持人形保存会」が設立されました。長く保管されてきた込戸戸持人形一揃（市有民文）の付属古文書「式三番復活伝」や、下段に伝わる式三番の保存会からの指導により、白山神社の秋の例祭などで上演されるようになりました。
- ④ 御霊神社太々神楽（市無民文） 粕川町女洲1,174-1
明治10（1877）年に大胡町の近戸神社（現大胡神社）の社掌、奈良原盛造氏により伝授された神楽です。「西神」「宇受女」などの式舞、「魚つり」「たき出し」などの愛媛舞が、100年以上もの間、毎年・秋の2回の例祭に奉納されてきました。素朴な里神楽は地元の人々に親しまれ、貴重な郷土芸能になっています。

南麓の歴史、民俗に関する資料が展示されており、地域の文化や昔の生活を知ることができます。

- ① 月田近戸神社 粕川町月田1,261
毎年8月豊稔土曜日の例大祭では、「月田のささら」と呼ばれる月田近戸神社の獅子舞（県無民文）が奉納されます。神社の由緒記には、享享5（1433）年に獅子舞が奉納されたことと、獅子頭は高崎の安井又八の作であることが記されています。この例大祭の最後には、「御川降」神事が行われます。これは、全国的にも珍しい旧粕川への近戸神社神輿（市重文）の渡御と、濁酒（糟酒）流しを主とする神事です。「粕川」の河川名は、この神事からついたものであるといわれています。
- ② 六地藏石殿（国重文） 粕川町月田1,261
月田近戸神社の裏手にある、享享5（1342）年の銘をもつ県内最古の石殿です。寄棟造りの屋蓋を乗せた高さ120cmの石殿で、正面と側面に二体ずつ、合わせて六体の地蔵立像が半円彫りに刻まれています。六地藏信仰は、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天）のそれぞれで迷い苦しむ人々を救済し、浄土に導いてくれる六体の地蔵を祀る信仰です。この石殿は、南北朝時代の人々の深い信仰を物語る貴重な文化財です。
- ③ 月田のモチノキ（県天然） 粕川町月田1,308
樹齢300年ほどの古木です。モチノキは暖地性の常緑樹で、樹皮からとりもたず作られます。月田の地はモチノキの生育する北限に近く、これほどの巨木は非常に珍しいといえます。
- ④ 鏡手塚古墳（県史跡） 粕川町月田213-1
「上毛古墳群」に粕川村第36号墳として記載されています。墳丘の長さ28mの前方後円墳で、月田古墳群の主墳の一つです。長さ7mの横穴式石室は、河原石などの自然石積みで、金銅装の大刀を含む直刀や、鹿角製の柄に装身された刀子などが出土しました。馬・鹿・家などの形象埴輪が、後円部上には円形に、前方部上には左右対称に並べられていました。
- ⑤ 壇塚古墳（県史跡） 粕川町月田207他
「上毛古墳群」に粕川村第36号墳として記載されている、6世紀末の古墳です。墳丘の長さ28mの前方後円墳で、月田古墳群の主墳の一つです。長さ7mの横穴式石室は、河原石などの自然石積みで、金銅装の大刀を含む直刀や、鹿角製の柄に装身された刀子などが出土しました。馬・鹿・家などの形象埴輪が、後円部上には円形に、前方部上には左右対称に並べられていました。

- ⑥ 女洲城跡（市史跡） 粕川町女洲1,221-1他
西宮上沼・下沼の西側に広がる東西200m、南北50mほどの中世末期の連郭式の城跡です。上沼東の本丸を中心として堀や低い土塁がよく残っています。水を湛えた堀は、近世に用水路に改修されたと考えられます。女洲城跡の有力者が築いた城と推定され、戦国時代には、武田勢に沼田城を追われた沼田平八郎が入城した時期もありました。
- ⑦ 稲屋の石造馬頭観世音立像（市重文） 粕川町稲屋481-1
三面六臂の安山岩製の石像で、塔高は基壇共185cm、塔身は90cmあります。享享4（1747）年、村人の発願による建立で、高遠石工の作と推察されます。馬頭観世音のしるしである頭上の「南無」は欠け落ちていますが、荘厳な姿をよめています。すぐ西に「登かぶり地蔵」「善念供養塔」もあります。
- ⑧ 中村城跡（市史跡） 粕川町中496他
戦国時代末期の平城の跡と考えられています。この城について記述のある古文書はありませんが、「中村右馬之丞」の居城で、膳城などと共に武田勝頼に滅ぼされたといわれています。城跡は方200m規模と推定され、本丸の北面には、土塁や堀の跡がよく残っています。
- ⑨ 膳城跡（県史跡） 粕川町膳83-2他
南北500m、東西250mの範囲を濠や土塁で区画した連郭式の平城で、鎌倉幕府の重臣、三善康俊の子孫といわれる膳氏の居城跡です。膳氏、膳城の名は、戦国時代に語文にしばしば登場しますが、天正8（1580）年、世に言う「武田勝頼の膳城築城」で膳城は以後膳城となりました。現在でも土塁や曲輪、堀跡がよく残り、往時をしのべます。
- ⑩ 粕川歴史民俗資料館 粕川町膳48-1
旧粕川小学校の木造校舎の一部を利用して建てられました。赤城半島の古墳です。二段に築かれた墳径25mの円墳で、上円部には須磨の大塚と3つの家型埴輪、中段部には人型・大刀・短刀などの形象埴輪が配されています。長さ7.4mの横穴式石室は、小口に自然石を、奥壁には大きな2枚の石を積んでいます。石室からは、直刀・短刀・小刀・耳環などの副葬品が出土しました。石室前に長方形の形跡をもち、石室入口には人型埴輪が置かれていました。
- ⑪ 室沢磐跡（市史跡） 粕川町室沢938-2他
室沢宿の北方、神田沢と室沢に挟まれた日光東照宮を望む高台を峰屋敷といいますが、かすかに土手や堀の痕跡が認められ、中世以降の豪族の館跡と推定されています。
- ⑫ 宇通遺跡（市史跡） 粕川町中之沢456他
標高650mの山中にある遺跡で、昭和40（1965）年にこの付近で山火事となり発見されました。数回にわたる発掘調査で、仏堂とみられるものを含む16棟の礎石建物や、50軒を超える竪穴式住居が確認されています。また、出土遺物には、金銅製女神小像や埴輪の飾り金具などがありました。これらのことから、平安時代後期の山岳寺院跡と考えられています。
- ⑬⑭ 滝沢不動明王像（市重文）と滝沢の不動滝（県名勝） 粕川町中之沢456他
標高785mの粕川川上に、大岩に抱かれるようにして不動堂が建てられています。このお堂の中に、享享13（1406）年の銘をもつ、高さ80cmの不動明王像があります。漆喰製で、火焼青、右手、両足、磐石は失われています。昌泰元年（現在の昌泰元年）の官であつた藤原沙彌道広が、鼻ヶ石村瑞雲寺（現在の鼻ヶ石村）に瑞雲寺を建てたといわれています。これよりさらに上流にある滝沢の不動滝は、赤城山で一番大きな滝です。
- ⑮ 上毛電気鉄道粕川橋梁（国登録有形文化財） 粕川町女洲・粕川町西原
上毛電気鉄道株式会社は、昭和3（1928）年に開業しました。当時の面影を今に伝える、貴重な近代化遺産です。

（重文）……重要文化財 有民文……重要有形民俗文化財
（重美）……重要美術品 無民文……重要無形民俗文化財
（天記）……天然記念物 登有文……登録有形文化財
※については、ふだん公開されていません。

粕川地区の 文化財を訪ねて

文化財めぐりコース (約6.3km)

膳城跡 → 粕川歴史民俗資料館 → 月田近戸神社 (六地藏石殿)
 0.1km 1.4km
 0.9km → 壇塚古墳 → 鏡手塚古墳 → 中村城跡
 0.1km 1.5km
 1.9km → 観音堂 (木造十一面観音立像) → 女洲城跡
 0.4km

○	円	墳
◻	前	方
◻	後	円
⛪	寺	院
⛩	神	社
⛴	城	跡
🗿	石	造
🏠	建	築
⋯	そ	の
⋯	他	
📍	文化財めぐりコース 総合案内板	
▼	文化財めぐりコース 進行方向	